

今月のトピックス

暖房器具による事故にご注意ください。

NITE製品安全センターに通知された製品事故情報のうち、平成18年度から平成22年度までに発生した暖房器具の事故は2,314件あり、製品別にみると、電気ストーブ(948件)、石油ストーブ(633件)、石油温風暖房機(281件)による火災等の事故が多発しています。事故全体のうち、死亡事故は195件(233人)あり、このうち101件(114人)は誤使用・不注意によるものでした。特に石油ストーブでは633件中397件と6割以上の事故が誤使用・不注意によるものです。

暖房器具による事故は11月から増加する傾向があります。特に今年は節電指向により石油ストーブの需要が高まり、今まで使っていなかった古い暖房器具を持ち出して使用したり、使い慣れていない暖房器具を使用したりする機会が増加すると予想されます。下記注意事項及び次のページのちらしを参考に製品を正しく安全に使用し、事故を未然に防ぎましょう。

◆ 石油ストーブ、石油温風暖房機を使用する際の注意事項

- ①給油は、完全に火が消えたことを確認してから行ってください。
- ②カートリッジタンクは、ふたが完全に締まっているかどうか、給油口を下にして油もれがないかどうかを必ず確認してから装着してください。
- ③給油時に間違えてガソリンを入れないよう、灯油であることを必ず確認してください。
- ④長時間の使用は一酸化炭素中毒になる可能性がありますので、定期的に換気を行ってください。
- ⑤昨年から持ち越した灯油や汚れた灯油、水の混じった灯油などは使用しないでください。
- ⑥燃焼筒は正しくセットしてください。

NITE製品評価技術基盤機構 <http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs111020.html>

◇ 平成23年9月の重大製品事故公表情報(消費者庁)

[単位:件]

ガス機器・石油機器に関する事故	ガス機器・石油機器以外の製品に関する製品起因が疑われる事故						
	エアコン	扇風機	電気洗濯乾燥機	圧力鍋	その他	その他の主な製品の内訳	
16	23	5	2	2	1	13	<ul style="list-style-type: none"> ・手すり ・携帯電話機 ・コーヒーメーカー ・椅子(浴室用) ・電子レンジ ・照明器具 ・椅子 ・ガラス瓶 ・携帯電話用電池パック

※ 詳細な情報は、消費者庁のホームページをご覧ください。
(<http://www.caa.go.jp/safety/index.html>)

ガスふろがまに関する事故

ガスふろがまに関する事故として以下のようなものが報告されていますのでご注意ください。

(事例1)ガスふろがまに点火したところ、焦げ臭いにおいがして、浴室から煙が出た。

→浴槽とガスふろがまが一体型の製品で、浴室に設置されていました。排水が詰まって水がたまり、バーナーが水に浸かって異常燃焼し、内部のコードなどに燃え移ったものと推定されます。一体型の製品は、バーナーが水に浸かった場合異常燃焼することがありますので、ガスふろがまを冠水させないでください。

(事例2)ガスふろがまの点火操作を繰り返したところ、異常着火し、外装の一部が変形した。

→ふろがまに点火しなかった際に点火操作を繰り返したため、機器内部にガスが滞留し、たまったガスに異常着火したものと推定されます。点火操作を繰り返すと機器内にガスが滞留し、異常着火する場合がありますので、点火しないときはしばらく間をおいてから再度、点火操作をしてください。

NITE製品安全情報マガジン <http://www.nite.go.jp/jiko/psm/>

【発行】長野県 企画部 消費生活室

電話 : 026-223-6770

ホームページ : <http://www.nagano-shohi.net/seihin-anzen/>

暖房器具の事故

事故の概要

【事例①】住宅から出火し、部屋の一部を焼いて1人が死亡した。

【事例②】居間付近から出火し、住宅を全焼して1人が死亡した。



カートリッジタンクから漏れた灯油が引火しました(再現実験)

事故の原因

【事例①】石油ストーブを消火せずにカートリッジタンクに給油したところ、カートリッジタンクのふた(ネジ式)の締め方が不完全だったため、セットしようとした際に漏れた灯油にストーブの火が引火したものです。

【事例②】電気ストーブのそばで眠っていたため、布団がヒーター一部に近づいて着火したものです。



ふとんがストーブに触れた16分30秒後に着火しました(再現実験)



事故防止のために

- ◆布団やカーテン、新聞、雑誌など可燃物の近くで使用しないでください。
- ◆洗濯物等を器具の上に吊したり、乾かさないうでください。
- ◆就寝時は必ず火を消し、外出時は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ◆温風のあたるところにスプレー缶やカセットこんろ用ボンベを放置しないでください。
- ◆温風暖房機(ファンヒーター)は、温風の吹出口や吸気口ふさがないでください。
- ◆ガスや石油を燃料とする器具は、必ず換気をしてください。

